

札幌司法書士会

札幌司法書士会の新会長が就任しました



宮城県復興支援事務所にて

札幌司法書士会 新会長 さとむら みき お
里村 美喜夫

平成29年5月13日、札幌司法書士会定時総会が開催され、里村美喜夫(さとむらみきお)が札幌司法書士会会長に就任し、新体制がスタートしました。

プロフィール

昭和63年 司法書士登録。
平成13年 全国青年司法書士協議会(略称:全青司)会長に就任。
平成17年～日本司法書士会連合会(略称:日司連)理事に就任。
平成21年～同連合会専務理事。
平成23年～4年間に渡って同連合会の副会長を務める。
平成29年5月 札幌司法書士会会長に就任。

市民の抱える様々な問題に取り組み、道内各地で精力的に活動

里村会長は、**司法書士登録をして今年で30年目**。平成13年には全国青年司法書士協議会の会長を務め、市民の抱える様々な問題の現場に寄り添い、**消費者や被害者のため全国クレサラキャラバン、ヤミ金被害者のための相談会を実施**しました。当時は過払い金に関する最高裁判例が出る前で、借金問題の解決に取り組む法律家もまだ少なく、被害者の方々や弁護士さんと一緒に手弁当で札幌、岩見沢、深川、滝川、旭川、釧路、函館と**道内各地をキャラバンカーで回り**、街頭に立って市民に金利引き下げなどを訴え、**北海道から沖縄まで全国ヘリレーをつなげました**。その後、ヤミ金被害者のために相談を行い、寄せられた情報をもとに、有志の司法書士と一緒に**ヤミ金84社の告発状を北海道警察へ提出**しました。

東日本大震災後には現地での巡回相談などを実施

平成17年からは日本司法書士会連合会の理事、専務理事、副会長を歴任し、**司法過疎の解消や、東日本大震災の復興支援としての現地調査や巡回相談、災害復興支援事務所の設置**などに取り組んできました。ときには市民の怒りや憤りを代弁し闘う司法書士となり、またときには、声を上げることすら難しい環境にある市民の方々が、何を求めているのか声なき声に耳を澄ませ、常に市民に寄り添い続けてきました。

祖父の代から3代続く司法書士でもある里村会長が、幼い頃に見ていた父の姿は、「代書屋さん」と呼ばれる登記の専門家でした。しかし、社会・経済構造の変革の中で、市民から「暮らしの中の身近な法律家」として司法書士に求められる資質は、変化してきました。他国に例を見ない少子高齢化が進む日本社会ですが、特に北海道においては、限られた労働人口で経済活動を活性化するため働き方の改革や、人口減少が進む地方経済の活性化など、様々な課題に直面しています。「**社会の変化に対応し、市民のみなさまの権利と財産を守るために、必要とされる職能**」であることを目指し、札幌司法書士会はこれからも歩み続けます。

札幌司法書士会
キャラクター
コロボくん

